

# 生活習慣病センターだより

## ☆「肥満症治療の最新」☆

2025年3月発行

### 『肥満と肥満症の違い』

簡単に説明しますと、肥満は脂肪が蓄積しており、BMIが25以上ある状態を言いますが、肥満症はBMIが25以上であることに加え、肥満に関連する健康障害があるか、もしくは内臓脂肪の蓄積がCTで確認できた場合を言います。そして肥満症は医学的に減量治療を必要とする状態であるとされています。

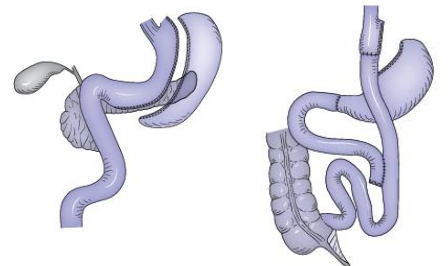
### 肥満症の診断に必要な『11の健康障害』

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ① 耐糖能異常        | ⑦ 非アルコール性脂肪肝疾患 |
| ② 脂質異常症        | ⑧ 月経異常・女性不妊    |
| ③ 高血圧          | ⑨ 閉塞性睡眠時無呼吸症候群 |
| ④ 高尿酸血症・痛風     | ⑩ 変形性関節症など     |
| ⑤ 冠動脈疾患        | ⑪ 肥満関連腎臓病      |
| ⑥ 脳梗塞・一過性脳虚血発作 |                |



### 『減量・代謝改善手術 ～メタボリックサージェリー～』

現在、日本でも保険診療で行える治療法として手術療法があります。原理はシンプルで胃を切除して小さくすることで食べる量を減らすことでできます。食べる量を減らすことで体重減少ができるわけですが、体重のみならず血糖・血圧・脂質といった代謝も改善が見込め、手術前に内服していたお薬も減らせる可能性があります。また内科療法（薬物・食事・運動）に比べても長期的に減量を維持できるとされていますが、肥満症の患者さん全てに適応があるわけではなく、また手術療法に伴う体への負担もあることには注意が必要です



スリーブ状胃切除術 スリーブ状胃切除術と  
十二指腸空腸バイパス術

保険診療でできる手術



### 『新しい肥満症治療薬 ～ウゴービ(セマグルチド)～』

肥満症の治療に使用できる薬剤としては、約30年ぶりの新薬が開発されました。もともとは糖尿病患者さんの治療として発売されていたGLP-1受容体作動薬である注射剤のオゼンピックと成分は同じになります。GLP-1受容体作動薬はインスリン分泌を助けることで血糖低下作用がありますが、さらに食欲を抑える働きもあり、体重減少が期待できる薬剤となります。このGLP-1受容体作動薬はこれまで糖尿病の患者さんのみに適応がありましたが、今回発売されたウゴービは糖尿病ではない肥満症の患者さん（高血圧や脂質異常症、BMIなどの条件はある）にも適応が広がり、またオゼンピックより高用量を使用することができるため、より減量が期待できる薬剤となっています。ただし、いずれの治療も食事療法・運動療法が重要であることには変わりなく、生活改善を目指す行動療法は継続しましょう。